

遙か昔、この世界を作った神がまだ大地にいた時代。
大地の母たる神と、父たる神はささいな行き違いから争いを始めた。

地下深く黄泉の国にいた母なる女神は言った。
「愛しい貴方の国の子供たちを、一日ごとに１０００人殺して黄泉に迎えましょう」

地上に残った父なる神はこう言った。
「愛しい君よ、ならばこの国は一日に１５００の産屋を建てるだろう」

それから幾許かの時が過ぎ、父なる神は天に帰り、地上は少しずつ増えてゆく人の子のものになろうとしていた。

これから語られるのは、この大地に生き、懸命に生を全うしようとする人の子達が織り成す物語である。